

平成30年度 授業改善推進プラン

教育目標

人権尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、知性と感性に富み、生涯を通じて主体的に学び続け、国際社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指した教育を推進する、そのために、次の教育目標を定める。

- ねばり強く、真剣に学習する生徒
- 思いやりの心もち、奉仕する生徒
- 進んで心身の健康に努める生徒

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ① 各教科において、基礎・基本の確実な定着を図る指導を行うとともに、発展的な学習を計画的・段階的に取り入れる。
- ② 各教科において、習得した知識や技能を活用する機会、生徒が自ら考え、その考えを発表する機会を整備し、授業への主体的・能動的な関わりを強め、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。
- ③ 適正な評価規準を設定して学習状況の評価を実施する。また、生徒の学習の達成状況と課題を的確に把握して3学年間累積し、個に応じた指導を充実させる。
- ④ デジタル教科書、電子黒板、タブレット端末等のICTを活用し、生徒の興味・関心を高め、個々の課題に対応できる授業を工夫する。
- ⑤ 漢字検定、数学検定、英語検定を学校を会場に実施し、また、各種コンクールやコンテストへの応募を促進することにより、目標をもって学習に取り組ませ、学習意欲を高める。

昨年度の成果と課題

平成27,28年度の2年間で、授業改善の方向と授業計画のポイントを明確にすることができたが、コンピテンシーを直接育成する授業実践が不足し、教科間で連携を取るまでに至らなかった。そこで29年度は引き続き「教科等横断的にコンピテンシーを育成する指導の実践」をテーマに、授業実践と報告会を通して生徒が能動的に関われる授業の工夫に取り組み、「深い学び」への道筋を作り、道徳におけるコンピテンシーのあり方についても研修を行った。青山アカデミーでは授業のユニバーサルデザイン化とICT機器の活用にも取り組んだが、本校のICT機器の整備と各教科での活用が今後の課題である。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○言語活動の充実 ○土曜授業の有効活用 ○大学、高校との連携	○思考力・判断力・表現力等の育成 ○生徒の授業への能動的な関わりへの促進 ○基礎的・基本的内容の定着 ○授業のユニバーサルデザイン化	○学期始めに各教科のオリエンテーションの実施 ○保護者会で評価に関する資料の配布と説明	○校内研修による授業改善の実施 ○ICTを活用した授業の推進 ☆「特別の教科道徳」に向けての研修	○学校公開週間及び公開日を通年で設定 ○学校行事への保護者・地域の参加促進
具体的な取組				
○都立青山高校、都立日比谷高校との連携授業の実施 ○土曜日、休日を利用した玉川大学、美術館との連携授業と見学の実施	○各授業で「明確なねらい、振り返り、課題解決・協同学習」の実践 ○漢字検定、数学検定、実用英語技能検定の年間各3回の実施 ☆普通教室へのICT機器配備	○生徒に学習の進め方、評価の方針、方法等を具体的に説明 ○保護者会で評価に関する資料を配布し、説明	○ICT機器の使用に関する校内研修を実施 ☆特別の教科道徳への移行を踏まえた道徳の授業研究（年に3回の研究授業と校内研修の実施） ☆生徒による授業アンケート実施	○学校説明会で都立青山高校との連携 ▲学校ホームページでの情報発信

☆→今年度からの取組 ○→定着・継続している取組 ▲→活性化が必要な取組